

## 1 保育科における教職課程の意義および理念について

少子化や核家族化、女性の社会進出など幼児を取り巻く地域社会や家庭の変化に伴い、幼稚園教諭に求められる知識や能力、資質は大きく変化してきています。

幼児期は心身ともに、日々急速に成長する時期です。幼児は温かい雰囲気の中で周囲の環境に働きかけ、環境との相互作用を通じて主体的にあそぶことによって、自己を発揮することができます。その中で幼稚園教諭は子どもの思いを汲み取り、個々の特性に応じて関わることにより、子どもが持つ能力を最大限に引き出すことができるように援助していかなければなりません。また保護者とともに子どもの育ちを見つめ、他の保育者と協働して保育活動を展開させていく能力が必要になります。

保育科では、建学の精神である「感恩奉仕」を教育の基盤とし、キリスト教園をはじめとした幼稚園での実習を通して、幼稚園教諭として豊かな人間性と専門的力量を有し、子どもの発達・成長を支える実践を行うことができる人材を育成することを目指しています。短期大学の2年間では日々の学修の中で学生が主体的に学び、実習における保育実践を通して自己課題を見つけることにより、自らの子ども観や保育観を形成し、さらに幼稚園教諭としての資質を高めていくことが重要です。また、免許の取得のみにとどまらず常に子どもや保護者を含めた現代的課題に関心を持ち、学び続ける姿勢をもつことのできる有為な人材になって欲しいと願っています。